

§ 2-2.

実験 B-2 顔の性別判断における形態と肌色の作用へカラー画像を用いて

1. 目的

実験 B-1 により、形態と性別判断の推移との関係が把握された。そこで得られた判断の推移は形態の合成比率との間で完全な比例関係を保つものではなかった。しかし、形態的な情報のみでなく色彩という新たな情報が加わった場合には結果が異なる可能性も否定できない。判断に変化が生じる可能性は、実験 A-1 及び A-2 から十分に考えられるといえる。

実験 A-1 においては線画を用いたが、本実験では実験 B-1 と同様の合成顔画像を用いた。これにより、より現実に近い情報を与えた上で顔に対する判断を問うことが可能となる。本実験においては形態に肌色という情報を加え、色白肌と色黒肌による判断の違い、色彩情報を伴わない場合との違いに着目しながら、より日常場面に近い顔からの性別判断特性の補足を目指した。

2. 方法

2-1. 刺激

実験 B-1 と同様の男性平均顔、女性平均顔を使用し、その合成比率を段階的に変化させ 5 種の顔パターンを作成した（作成方法については § 2-1 2-1 項参照）。刺激の女性パターン合成比率は 25/40/50/60/75% とし、肌色の明度をそれぞれ色黒 ($L^*=65$)、色白 ($L^*=95$) の 2 色に加工した。他の実験と同様に、最大サイズで 32×23mm に出力されるよう調整した。尚、明度の調整には Adobe 社製 Photoshop 7.0 を用い、額の同一座標点（左右の眉頭を結んだ線を一辺とする正三角形の頂点）における明度を指標として変化させた。

当該の方法で作成された顔刺激をランダムに並べ、DocuCentreColor 320 にてゼロックス社純正カラープリント用紙(B4)に印刷した。使用した刺激は次頁に一覧として示す。また、刺激の構成が明瞭とならないよう、50%パターンに対して明度段階を更に設け、 $L^*=75$ 、80、85 を刺激として追加し、計 14 種を使用した。

尚、出力環境の関係上、実際に使用した刺激と多少色みが異なる。



Figure 2-2-1 実験 B-2 使用刺激

2-2. 対象者

日本人大学生及び大学院生 92 名*

男性 49 名 (18~34 歳 : 21.22 歳) / 女性 43 名 (19~35 歳 : 22.16 歳)

※実験 C-2 と共通

2-3. 手続き

顔刺激群を紙面提示し、各々に対する性別判断を尋ねた。ここでは、男性/女性のどちらか一方を選択させ、○を付ける方式を採用した。また、丸みの印象につい

ても6段階で尋ね、「角張った」「丸みを帯びた」を両極とする尺度上にて最も刺激の印象に適する段階に○を付けさせた（非常に角張った／かなり角張った／やや角張った／やや丸みを帯びた／かなり丸みを帯びた／非常に丸みを帯びた）。

また、刺激に対する回答後、本実験内容及び肌の色に対するアンケートにも回答を求めた。

2-4. 教示

別紙の顔サンプルをご覧ください。

それぞれのペアのうち、左右のどちらの方が女性に見えますか？

また、そうでない方に比べてどのくらい女性に見えますか？

回答例にならってご記入下さい。

2-5. 実験期間

2003年11月中旬～2004年1月下旬

2-6. 実験場所

早稲田大学人間科学部所沢キャンパス100号館各種教室

2-7. 実験条件

昼白色の蛍光灯により照明されている教室を使用し、十分な照度があることを確認した上、実験を行なった。

3. 結果及び考察

3-1. 基本統計量

観察者の性別毎に各刺激に対する男性判断数、及び女性判断数を集計し、それぞ

れの性別の判断率を算出した。また、丸みの印象評定に対しては、各段階に 1～6 の数値を割り当て、基本統計量を算出した。下表はその結果を示す。尚、性別判断に対しては男女間で χ^2 検定を行い (2×2) その結果は χ^2 test の欄に示した。更に、丸みの評定結果についても平均値、標準偏差を算出し、Table 2-2-1 にまとめた。尚、t-test の欄の数値は男女間 t 検定によって得られた t 値を示す。

Table 2-2-1 各性別判断数及び判断率

		男性		女性		全体		χ^2 -test χ^2
		男性判断	女性判断	男性判断	女性判断	男性判断	女性判断	
25%	色白	45 (97.8%)	1 (2.2%)	43 (100.0%)	0 (0.0%)	88 (98.9%)	1 (1.1%)	0.987
	色黒	46 (100.0%)	0 (0.0%)	42 (97.7%)	1 (2.3%)	88 (98.9%)	1 (1.1%)	1.124
40%	色白	35 (76.1%)	11 (23.9%)	34 (79.1%)	9 (20.9%)	69 (77.5%)	20 (22.5%)	0.154
	色黒	37 (82.2%)	8 (17.8%)	36 (85.7%)	6 (14.3%)	73 (83.9%)	14 (16.1%)	0.233
50%	色白	27 (58.7%)	19 (41.3%)	13 (30.2%)	30 (69.8%)	40 (44.9%)	49 (55.1%)	7.331 **
	75	24 (52.2%)	22 (47.8%)	23 (53.5%)	20 (46.5%)	47 (52.8%)	42 (47.2%)	0.056
	80	18 (39.1%)	28 (60.9%)	12 (27.9%)	31 (72.1%)	30 (33.7%)	59 (66.3%)	1.295
	85	24 (52.2%)	22 (47.8%)	14 (32.6%)	29 (67.4%)	38 (42.7%)	51 (57.3%)	3.542 †
	色黒	29 (63.0%)	17 (37.0%)	23 (53.5%)	20 (46.5%)	52 (58.4%)	37 (41.6%)	0.877
60%	色白	4 (8.5%)	43 (91.5%)	0 (0.0%)	43 (100.0%)	4 (4.4%)	86 (95.6%)	3.878 *
	色黒	15 (32.6%)	31 (67.4%)	8 (19.0%)	34 (81.0%)	23 (26.1%)	65 (73.9%)	2.101
75%	色白	2 (4.3%)	44 (95.7%)	2 (4.7%)	41 (95.3%)	4 (4.5%)	85 (95.5%)	0.045
	色黒	6 (13.0%)	40 (87.0%)	2 (4.7%)	41 (95.3%)	8 (9.0%)	81 (91.0%)	1.957

※ †p<.10, *p<.05, **p<.01

Table 2-2-2 丸み評定結果

顔 パ タ ン	肌 色	男性観察者		女性観察者		t-test t
		average	SD	average	SD	
25%	色白	2.660	1.185	2.558	0.825	0.474
	色黒	2.447	0.904	2.119	0.803	1.811 †
40%	色白	3.553	1.017	3.279	0.959	1.315
	色黒	3.298	0.976	3.048	0.825	1.310
50%	75	3.292	1.010	3.302	0.832	0.055
	80	3.404	0.825	3.814	0.824	2.353 *
	85	3.468	0.881	3.651	0.813	1.025
	色白	3.660	1.109	3.651	0.720	0.043
	色黒	3.319	1.024	3.442	0.983	0.580
60%	色白	4.082	0.640	4.140	0.990	0.328
	色黒	3.766	1.026	3.786	0.813	0.101
75%	色白	4.625	0.866	4.977	0.859	1.942 †
	色黒	4.021	1.139	4.233	1.065	0.916

※ †p<.10, *p<.05

男女間で行なった性別判断の χ^2 検定では、50%パターン (1%水準) と 60%パターン (5%水準) の色白肌において有意な偏りが認められた。これらの顔では男性の

方が男性として判断し易く、女性の方が女性として判断し易いということがいえる。

Figure 2-2-2□ 2-2-3 は、各顔刺激に対する女性判断率を棒グラフ、丸みの評定を折れ線グラフとして表した図である。

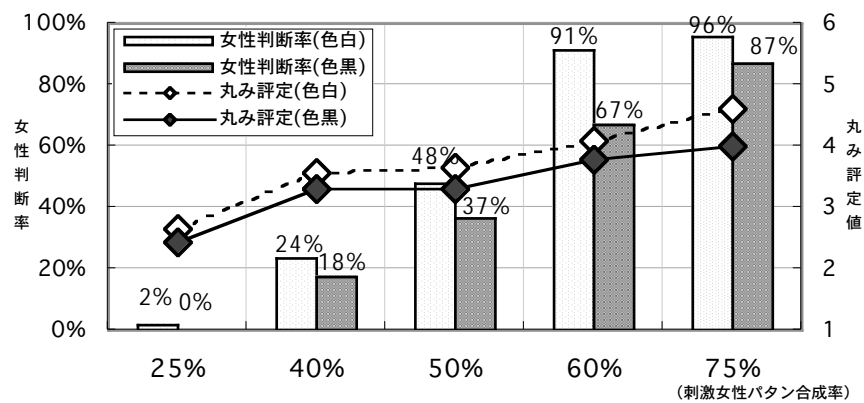


Figure 2-2-2 女性判断率及び丸み評定 (男性)

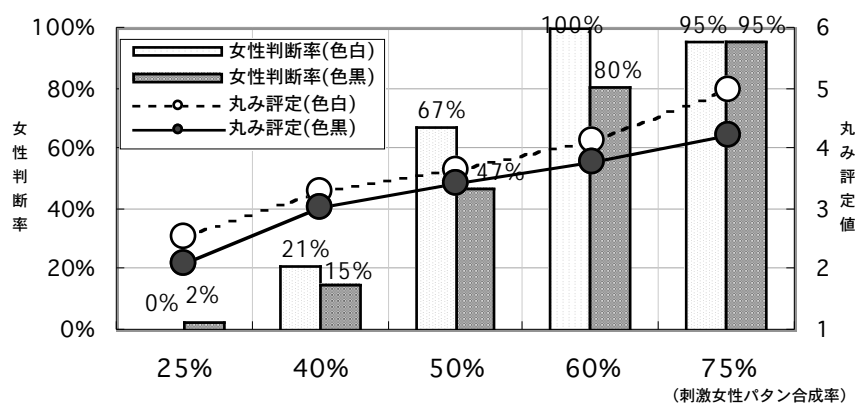


Figure 2-2-3 女性判断率及び丸み評定 (女性)

何れのグラフにおいても、合成率 50%の顔パターンは男女の判断を 50%ずつに分ける刺激とはなっておらず、女性判断の方が優勢であったことが窺われる（全体の8割）。

まず、男性観察者のグラフでは、何れの顔パターンについても色白肌の方が色黒肌よりもより高い女性判断を受けていることが指摘できる。その差は 60%パターンにおいて顕著に見られるが、肌色 2 水準、判断された性別 2 水準により 2×2 の χ^2 検定を行なった結果、その偏りは有意であった ($\chi^2(1)=8.314, p<.01$)。肌色毎に

棒グラフを分けてその傾向を見ると、色黒肌はほぼ直線的な変化となっている一方、色白肌の場合は 60%パタンと 75%パタンの女性判断率がほぼ横並びとなっており、顔刺激の女性パタン合成率と女性判断率との関係性は比率によって変化するということが捉えられる。また、丸みの評定はほぼ直線的に変化しており、顔刺激の合成率に従った評定となっていることがここから推測される。

女性観察者のグラフでは、女性判断率が色白>色黒となっているパタンは 40～60%の 3 種に限られていることが確認できる。中でも 50%パタンと 60%パタンにおいては肌色間で 20%の違いが見られたが、後に述べるように、肌色 2 水準、判断された性別 2 水準により 2×2 の χ^2 検定を行なった結果、50%パタンの偏りは有意傾向であり ($\chi^2(1)=3.842, p<.10$)、また 60%パタンは有意であった ($\chi^2(1)=9.041, p<.05$)。これらの顔パタンにおいては、色白肌の方がより女性として判断されやすく、色黒肌は比較的男性として判断され易いということが出来る。

更に、丸みの評定については男性観察者のグラフと同様にやや右上がりの傾きを確認できるが、グラフの両端においてやや色白と色黒間の差が拡大していることが特徴として指摘できる。

3-2. 回帰分析

1) 女性パタン合成率と女性判断率

刺激の女性パタン合成率 (%) を x 、女性判断率 (%) を y とした回帰分析の結果、男女それぞれの結果について次のような式が得られた。

- ・ 男性観察者 色白肌： $y=2.078x-51.676$ ($r^2=0.927$)
 色黒肌： $y=1.841x-50.254$ ($r^2=0.975$)
- ・ 女性観察者 色白肌： $y=2.189x-52.719$ ($r^2=0.871$)
 色黒肌： $y=2.053x-54.739$ ($r^2=0.947$)

前掲のグラフにおいて確認したように、男性観察者では色黒肌においてより相関が高くなっている。つまり、色黒肌の顔の場合は、男女の境界がより形態的な合成率に準拠して推移するといえる。

2) 丸みの評定と女性パターン合成率

顔刺激の女性パターン合成率(%)を x 、丸みの評定を y とした回帰分析の結果、男女別に次のような式が得られた。

・ 男性観察者	色白肌： $y=0.038x+1.839$ ($r^2=0.970$)
	色黒肌： $y=0.030x+1.852$ ($r^2=0.928$)
・ 女性観察者	色白肌： $y=0.048x+1.339$ ($r^2=0.996$)
	色黒肌： $y=0.042x+1.249$ ($r^2=0.969$)

相関係数としては何れも高い数値が示されているが、丸みの印象は形態的な変化に従って、より具体的には女性パタンの含有率が増加するに従って丸みを帯びた印象を増していくことが指摘できる。

また、傾きの値は各条件において男女間で 0.01 程の差がある程度であり、ほぼ一致していると捉えられる。色白-色黒間の違いも色白 > 色黒となる傾向が指摘でき、この点についても男女で共通しているといえる。唯一の大きな男女間の違いとして切片の違いが存在する。男性のデータからはより高い数値が導出されたが、本実験で用いた刺激に対しては、男性寄りのパターンであっても男性の方が絶対的に丸みを帯びた印象を受け取っていたことが指摘できる。

3) 女性判断率と丸みの評定

丸みの評定を x 、女性判断率(%)を y とした回帰分析の結果、男女別に次のような式が得られた。

・ 男性観察者	色白肌： $y=59.982x-144.660$ ($r^2=0.875$)
	色黒肌： $y=55.602x-145.568$ ($r^2=0.883$)
・ 女性観察者	色白肌： $y=44.681x-109.510$ ($r^2=0.827$)
	色黒肌： $y=47.214x-109.095$ ($r^2=0.892$)

受け取られる丸みの印象と女性判断率との関係は極めて強いものであることは相関係数からも言えることであるが、合成率そのものよりは若干低い値となっている。

男女間の違いはやはり切片に生じており、男性の方がより低い値から開始されていることが指摘できる。これは男性の方がより男性判断に傾き易く、女性判断しにくかったことを示すものであり、一方の女性は逆に女性判断に傾き、女性判断し易かったことが読み取れる。

3-3. 肌色作用の分析

1) 肌色と性別判断

性別の判断に対する肌色の作用を探るため、色白／色黒の各条件間で各性別判断の度数を比較し、その偏りの有意性を χ^2 検定により検討した。下表はその結果として得られた χ^2 値を顔パターン毎にまとめたものである。

Table 2-2-3 肌色間 χ^2 検定結果

顔パターン	男性観察者	女性観察者
25%	1.011	-
40%	0.529	0.645
50%	1.113	3.842 †
60%	8.314 **	9.041 **
75%	2.190	0.000

※ †p<.10, **p<.01

60%パターンにおいては男女共判断の偏りが有意であり（1%水準）、色白条件の方がより女性として判断され、逆に色黒条件の方がより男性として判断されやすいことが統計的に示された。また、女性観察者においては50%パターンについても有意傾向の偏りが認められた（10%水準）。ここでも色白は女性、色黒は男性と判断されやすい傾向にあったことが言えるが、5種のパタンのうちでも50%、60%のように男女のパターンが拮抗するか女性パターンの方が若干優勢となる場合において特に肌色の作用が大きいということが考えられる。

更に、肌色の変化に伴う性別判断の変化に着目しマクネマーの検定を行なった。各顔パターンにおける判断の変化は次の通りであった。

Table 2-2-4 マクネマーの検定結果

色黒→色白に伴う判断の変化		25%	40%	50%	60%	75%
男性評定者	男性判断→女性判断	1	9	12	13	5
	女性判断→男性判断	0	6	7	2	1
女性評定者	男性判断→女性判断	0	7	12	8	2
	女性判断→男性判断	1	4	3	0	2
				p<.10	p<.05	p<.01

男女の各評定者において、上段は色黒肌の場合に男性判断をし、色白肌の場合に女性判断をした評定者の人数、すなわち肌のステレオタイプ的な判断をした人数である。一方、下段は色黒肌の場合に女性判断をし、色白肌の場合に男性判断をした人数を示す。各度数に対し検定を行なった結果、やはり60%パターンにおいて男女共有意な変化が見られ(1%水準)、50%パターンでも有意、もしくは有意傾向の変化が確認された(男性:10%水準/女性:5%水準)。これらの条件では、何れにおいても上段の方が高い値を示していることから分かるように、色白→女性、色黒→男性という肌の色に基づくステレオタイプ的な判断がなされていたといえる。

2) 肌の色と丸み評定

色白-色黒間で丸み評定結果を比較した。ここではt検定を行なったが、その結果、男性観察者においては50%(10%水準)、60%(10%水準)、75%(1%水準)の3パターン、女性観察者においては25%(1%水準)、60%(10%水準)、75%(1%水準)の3パターンにおいて有意もしくは有意傾向の差が見られた。これらの差は全て色白の方がより丸く、色黒の方がより角張って評定されるという方向性を持つ。この傾向は前掲のグラフ(Figure 2-2-2、2-2-3)において容易に確認できる。

この結果では、男性観察者では女性パターン合成率の高い顔において肌の色間の差が目立っているといえるが、女性観察者の場合は女性寄りのパターンにおいてその差が顕著である一方、男性寄りパターンにおいても同様にその差が明瞭となる傾向が読み取れる。つまり、性別の印象がはっきりしている顔において差が生じやすいということが捉えられる結果となっている。

3-4. アンケート

1) 性別判断について

本実験に関するアンケートを全顔刺激に対する回答後に行なった。ここでは本実験において注目した顔の部位、及び日常場面において男女の判断の際に手がかりとする部位について尋ねた結果、次のような回答度数が得られた。

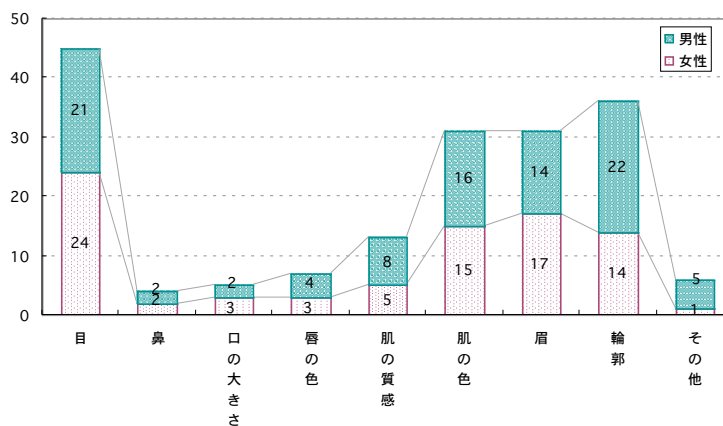


Figure 2-2-4 実験場面における注目部位

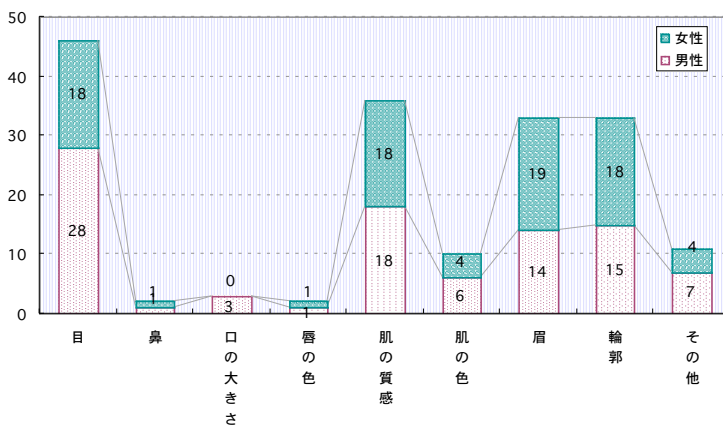


Figure 2-2-5 日常場面における注目部位

実験場面、日常場面共、目に注目が集まっていることが指摘できる。他には肌の色や眉、輪郭が男女共多く選択されたことが特徴であるといえる。肌の色が選ばれたことは本実験独特の傾向であると捉えられる。

更に日常場面における注目部位であるが、肌の色の選択が減り、替わって肌の質感が多く回答されていることに注意したい。日常場面においては、色よりもむしろテクスチャの方が参照されるということである。

2) 肌の色について

実験後のアンケートにおいて肌の色に関する質問を設けた。ここでは、[自分の現在の肌の色] [理想の肌の色] [好ましい男性の肌の色] [好ましい女性の肌の色] として最も近いものを色黒/やや色黒/普通/やや色白/色白の五者から1つを選択させた。その結果、男女別に Figure 2-2-6、2-2-7 のような回答傾向が得られた。尚、各グラフの着色は選択された肌の色の明度に従っており、色白ならば明るく、色黒ならば暗く網かけが施されている。

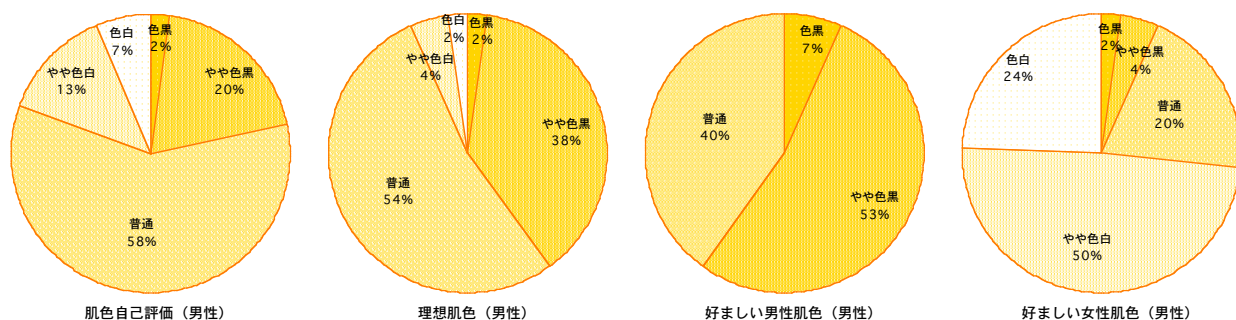


Figure 2-2-6 肌色アンケート結果 (男性)

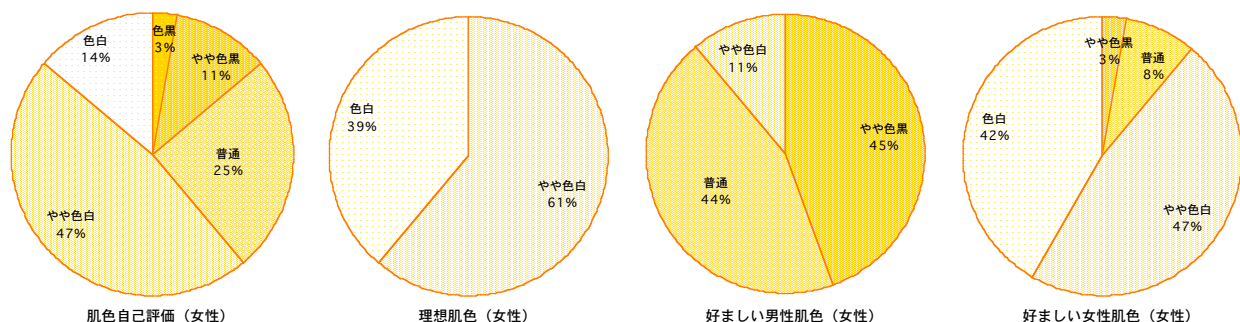


Figure 2-2-7 肌色アンケート結果 (女性)

[自分の現在の肌の色]

[自分の現在の肌の色]としては、男性において「普通」が最もよく選択され、女性については「やや色白」の頻度が高い結果となった。このアンケートは色票による基準色の提示を伴わないため、全くの主観的評価が結果に表されていると解釈される。つまり、回答者の実際の肌の色については把握できないことを前提としなければならぬが、男性の場合は大半において色黒でも色白でもない「普通」という自己認識がなされ、女性の場合は色白方向に寄った認識となる傾向が指摘できる。回答者の性別（男性／女性）、選択された肌の色（色黒／やや色黒／普通／やや色白／色白）による2×5の χ^2 検定の結果、度数の偏りは有意であり（ $\chi^2(4) = 15.698$, $p < .01$ ）、統計的にも男女の違いが示された。

[理想の肌の色]

円グラフの明るさからも確認できるように[理想の肌の色]では男女で大きく異なる傾向が得られた。男性の半数以上が「普通」を選択し、「色黒」「やや色黒」の両者を足して約40%となった。男性は「普通」を選ぶ頻度が高かったことから、肌の色に対するこだわりがあまりなく、どちらかといえば色黒、という程度の控えめな理想を抱いていることが考えられる。また、「やや色白」や「色白」に対する選択も見られており、少数意見ではあるものの肌の色の理想には多様性があると言える。

他方の女性では「やや色白」「色白」選択が集中した。男性と異なり、女性が理想とする肌の色は色白という方向性を持つことがここから明確に捉えられる。現在の肌の色と同様に、回答者の性別（男性／女性）、選択された肌の色（色黒／やや色黒／普通／やや色白／色白）による2×5の χ^2 検定を行った結果、度数の偏りは有意であった（ $\chi^2(4) = 67.790$, $p < .01$ ）。

[好ましい男性の肌の色]

男性の肌の色として好ましいとされたのは、「普通」もしくは「やや色黒」が大半であった。この傾向は男女でも共通しているといえるが、ごく少数ずつ選択された肌の色において違いが見られ、男性は「色黒」が僅かに回答されたのに対し、女性では「やや色白」が答えられた。回答者の性別（男性／女性）、選択された肌の色（色黒／やや色黒／普通／やや色白）による2×4の χ^2 検定の結果、度数の偏りは有意傾向であると認められた（ $\chi^2(3) = 7.814$, $p < .10$ ）。

また、先の項に挙げた「理想の肌の色」として「やや色白」や「色白」を選択した男性が見られた一方、「好ましい男性の肌の色」としたときにはそれらの色の選択がなくなったことは興味深い結果である。つまり、個人的な理想としては色白という方向性が描かれているものの、男性一般となった場合には男性のうちに色黒という明確な方向づけがなされ、個人的な理想と社会的な理想が区別されていることがここから把握できる。

「好ましい女性の肌の色」

男性の7割強、女性の約9割が色白の方向性を持つ肌の色を選択した。女性に求められる肌の色は多くの場合明るい色であることが捉えられるが、少数回答の中には「色黒」や「やや色黒」も含まれており、色黒の肌に対して好感を持つ場合もあることが読み取れる。全体として男女で類似し選択傾向が得られたといえるが、回答者の性別（男性／女性）、選択された肌の色（色黒／やや色黒／普通／やや色白／色白）による2×5の χ^2 検定の結果、有意な度数の偏りは得られなかった（ $\chi^2(4) = 4.647, n.s.$ ）。

更に、女性による「理想の肌の色」と「好ましい女性の肌の色」の回答を比較してみると、後者においてばらつきが生じていることが指摘できる。つまり、自分自身には色白の肌を求めるものの、他者としての女性では色白でない肌の色の方にむしろ好感を抱く場合もあるようである。

前述の結果に基づき、「現在の自分の肌の色」「理想の肌の色」の回答を組み合わせ、両者に基づくクロス表を作成した（Table 2-2-5、2-2-6 参照）。

対角線上に示された値は「現在の肌の色」と「理想の肌の色」が一致している回答者の人数を示す。この対角線より上側に表示されている場合は、より明るい肌の色を理想として求めることを示し、下側にある数値はより暗い肌の色を理想として求めることを表す。これを踏まえてクロス表を眺めると、男性は理想として現実以上に色黒の肌を求める傾向が強く、女性は逆に現実以上に色白の肌を求めることが分かる。男女共、現実と理想の肌の色が一致しているのは約半数程度であり、多くの場合はジェンダーステレオタイプと違わぬ方向性に則り、男性は色黒、女性は色白を理想とすることが窺われる。

また、前述の傾向に反する回答は男性で3件、女性で1件見られた。男性の3件のうちの1件と女性の1件は大方の回答傾向と然程の違いはなく、色黒、色白の程度を弱めるという方向性を持つものであった。しかし、男性の他の2件は色白に含まれる領域の肌色を理想とする回答であった。つまり、肌の色の黒さを弱めたいという消極的の希望ではなく、より明るい肌を求める積極的な希望であると解釈される。

Table 2-2-5 現実-理想肌クロス表 (男性)

		理想の肌色					合計
		色黒	やや色黒	普通	やや色白	色白	
現在の肌色	色黒			1			1
	やや色黒		8			1	9
	普通	1	8	16	1		26
	やや色白		1	5			6
	色白			2	1		3
合計		1	17	24	2	1	45

Table 2-2-6 現実-理想肌クロス表 (女性)

		理想の肌色					合計
		色黒	やや色黒	普通	やや色白	色白	
現在の肌色	色黒				1		1
	やや色黒				4		4
	普通				7	2	9
	やや色白				9	8	17
	色白				1	4	5
合計		0	0	0	22	14	36

次に、[好ましい男性の肌色] [好ましい女性の肌色] の回答に基づき、次のクロス表を作成した。

Table 2-2-7 男性肌-女性肌クロス表 (男性)

		好ましい女性肌					合計
		色黒	やや色黒	普通	やや色白	色白	
好ましい男性肌	色黒	1			1	1	3
	やや色黒		2	5	11	6	24
	普通			4	10	4	18
	やや色白						0
	色白						0
合計		1	2	9	22	11	45

Table 2-2-8 男性肌-女性肌クロス表 (女性)

		好ましい女性肌					合計
		色黒	やや色黒	普通	やや色白	色白	
好ましい男性肌	色黒						0
	やや色黒		1	2	7	6	16
	普通				9	7	16
	やや色白			1	1	2	4
	色白						0
合計		0	1	3	17	15	36

好ましいとする肌色が男女で共通している場合には、表中の右下がりの対角線上に度数が配されることになるが、本結果では女性1名を除き、当該の対角線の上

に数値が配置された。このことは、[好ましい男性の肌の色]として[好ましい女性の肌の色]と同じ肌の色か、それよりも暗い色が選択されたことを示し、換言すれば、[好ましい女性の肌の色]として[好ましい男性の肌の色]と同じかそれよりも明るい肌の色が選択されたことになる。この対角線から離れる程両者の差が大きく開いていくことになるが、女性に比べ男性の間では両者の差の大きい回答が目立つといえる。

3-6. アンケート結果に基づく性別判断の分析

既述の通り、アンケートにおいては[現在の肌の色][理想の肌の色][好ましい男性の肌の色][好ましい女性の肌の色]についてそれぞれ5段階の肌の色から選択させた。ここでは、[好ましい男性の肌の色][好ましい女性の肌の色]に着目し、女性は色白、男性は色黒という従来のジェンダーステレオタイプ的な方向性を持ち、両性に対して望ましいとする肌の色に2段階以上の差が見られる群を強ステレオタイプ群、1段階以内の差異となった群を弱ステレオタイプ群とした。前掲のクロス集計表においても確認できるように、強ステレオタイプ群は男性23名、女性20名、弱ステレオタイプ群は男性22名、女性16名となった。

本分析では、ステレオタイプの強度により回答者を群分けし、各顔刺激に対する性別判断の偏りを χ^2 検定により検討した。Table 2-2-9、2-2-10はその結果をまとめたものである。

Table 2-2-9 χ^2 検定結果 (ステレオタイプ分析：男性)

顔 パ タ ン	肌 色	弱ステレオタイプ群		強ステレオタイプ群		chi ² -test
		男性判断	女性判断	男性判断	女性判断	
25%	色白	22	0	20	1	1.073
	色黒	22	0	21	0	-
40%	色白	18	4	15	6	0.650
	色黒	18	4	16	4	0.022
50%	75	11	11	14	7	1.226
	80	13	9	8	13	1.896
	85	10	12	6	15	1.311
	色白	14	8	9	12	1.865
60%	色黒	14	8	14	7	0.043
	色白	2	20	2	19	0.002
75%	色黒	9	13	6	15	0.720
	色白	1	21	1	20	0.001
	色黒	3	19	3	18	0.004

Table 2-2-10 χ^2 検定結果（ステレオタイプ分析：女性）

顔 パ タ ン	肌 色	弱ステレオタイプ群		強ステレオタイプ群		chi ² -test
		男性判断	女性判断	男性判断	女性判断	
25%	色白	16	0	20	0	-
	色黒	16	0	19	1	0.823
40%	色白	12	4	15	5	0.000
	色黒	14	2	15	4	0.447
50%	75	6	10	5	15	0.655
	80	9	7	10	10	0.139
	85	5	11	5	15	0.173
	色白	4	12	9	11	1.541
	色黒	8	8	13	7	0.823
60%	色白	0	16	0	20	-
	色黒	2	14	5	14	1.036
75%	色白	1	15	1	19	0.026
	色黒	0	16	2	18	1.694

検定の結果、何れの顔刺激についても有意な偏りは認められなかった。よって、肌色に対するジェンダーステレオタイプの強さは性別の判断に対して明らかな影響は及ぼさなかったと解釈される。

3-7. アンケート結果に基づく丸み評定の分析

3-6 項と同様にアンケート結果に基づく回答者の分類を図り、強ステレオタイプ群と弱ステレオタイプ群の丸み評定の傾向を探った。各群の丸み評定平均値、標準偏差、並びに2群間のt検定結果はTable 2-2-11、及び2-2-12に示す通りである。

本分析の結果、女性評定者における60%色黒肌刺激の評定においてのみ、ステレオタイプの強弱間の有意差が認められた(0.1%水準)。これは、弱ステレオタイプ群の方が当該の刺激に対してより丸みを帯びていると評定した結果である。

有意差が認められたのはこの1刺激のみであるが、弱ステレオタイプ群の女性は、強ステレオタイプ群の女性に比べて色白-色黒間の丸み評定差が小さいことにも注意を向ける必要があると考える。強ステレオタイプ群は60%、75%の2パターンにおいて丸みの印象における肌色間の差が拡大しているが、弱ステレオタイプ群では、75%パタンのみにおいて丸みの印象に肌色による違いが生じていると捉えられる。

Table 2-2-11 ステレオタイプ別丸み評定結果 (男性)

顔 パ タ ン	肌 色	弱ステレオタイプ群		強ステレオタイプ群		t-test
		average	SD	average	SD	t
25%	色白	2.591	1.141	2.652	1.265	0.171
	色黒	2.591	0.854	2.304	0.974	1.050
40%	色白	3.727	1.032	3.348	1.027	1.236
	色黒	3.500	1.102	3.087	0.848	1.402
50%	75	3.091	1.109	3.435	0.945	1.117
	80	3.318	0.839	3.478	0.846	0.637
	85	3.286	1.007	3.609	0.783	1.178
	色白	3.545	1.262	3.739	1.010	0.567
	色黒	3.500	1.102	3.130	0.968	1.193
	60%	色白	3.909	0.610	4.174	0.576
	色黒	3.524	1.030	3.870	1.014	1.120
75%	色白	4.500	0.913	4.696	0.822	0.754
	色黒	3.955	1.174	4.000	1.168	0.130

Table 2-2-12 ステレオタイプ別丸み評定結果 (女性)

顔 パ タ ン	肌 色	弱ステレオタイプ群		強ステレオタイプ群		t-test
		average	SD	average	SD	t
25%	色白	2.563	0.892	2.650	0.875	0.295
	色黒	2.375	0.806	2.053	0.780	1.195
40%	色白	3.188	0.981	3.250	1.020	0.187
	色黒	3.188	0.834	3.053	0.848	0.473
50%	75	3.375	0.619	3.350	0.988	0.093
	80	3.813	0.750	3.850	0.933	0.134
	85	3.688	0.793	3.600	0.883	0.313
	色白	3.750	0.775	3.450	0.686	1.211
	色黒	3.625	0.957	3.400	1.095	0.657
	60%	色白	4.375	0.806	4.000	0.973
	色黒	4.250	0.577	3.368	0.761	3.876 ***
75%	色白	5.125	0.885	4.900	0.912	0.747
	色黒	4.375	0.957	3.950	1.146	1.212

※ ***p<.001